

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第2回再生普及推進のための連携チーム会合議事要旨

日時:平成27年12月4日(金) 13:30～15:00

場所:釧路地方合同庁舎4階 第三会議室

【出席者(敬称略・順不同)】

<個人>

- ・高橋 忠一 再生普及小委員会 委員長
- ・新庄 久志 再生普及小委員会 副委員長

<関係行政機関>

- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 治水専門官 大田 義博
- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 整備計画専門官 藤重 邦隆
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 網倉 和弘
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 立野 正信
- ・北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課 観光振興係長 佐々木 貴光

<再生普及行動計画オフィス>

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国立公園課 杉本 頼優
釧路湿原自然保護官事務所 渡邊 雄児
- ・公益財団法人北海道環境財団 久保田 学、安田 智子

事務局 この場は議決する場ではなく、情報を持ち寄って共有し、小委員会提案することが趣旨。

(以下、新庄座長の司会により進行)

議事1 自然再生の普及のためのパンフレット作成について

事務局 パンフレットについて共通項として、学生等にも理解できるよう専門用語を使用しない事、見栄えのする写真や図表を使用する事、文章は最小限とする事、各サイトごとに見開き2ページ分とする事、パネル作成を予定しているので写真や図表の転用を想定して欲しい事を説明。引き続き、資料1に基づき概要を説明した。

新庄座長 デザインは事務局で整理する事になるが文言、文章など気になる点はないか？まだ目を通していない方は、次の小委員会までご意見を頂きたい。旧川復元のページについて、ヌマオロを入れない事になったがページ配分はどのようになるだろう。

事務局 旧川復元で2ページ分用意してある。10~11ページの2ページ分が茅沼の内容になる。

新庄座長 茅沼の内容をゆとりを持って2ページ分作成するという事でよいか？

大田専門官 スペースを頂けるのであれば図表など大きくして見やすく作成したい。

事務局 図表は、小さいものを拡大して編集し直す必要があるのでそれぞれ元データを提供頂きたい。また、編集によっては現在ある文字や図を削除する必要などが出てくる可能性があるので改めて提案させて頂きたい。その段階で情報の過不足が出てくると思う。個別に相談させて頂きたい。

高橋委員長 文章も出来ればソフトを指定して提供頂いた方がよいか？

事務局 今年度については、ワードで編集してみようと思う。

新庄座長 茅沼含め、全プロジェクトが2ページずつ使用する事とする。茅沼の最後に将来としてヌマオロにふれても良いのでは？この後についても知りたいだろう。今後の展望も入れておいた方が良いと思う。

大田専門官 具体的な事は書けないと思うが、相談してみる。

事務局 青字で記入しているカ所はこれから図表など入れる事になる。コンサルなどデータを提供下さる方をご存知なら紹介頂きたい。

新庄座長 調査官の渡辺さんはどうか？

事務局 絵をあまり持っていない

新庄座長 湿原の写真は東洋印刷が持っている。環境省のガイドブックを作る時に無料で提供してもらった。

事務局 環境省で用意できるものもいくつかあるので普及小までには入れ込むが、洪水時の濁流の写真などは提供をお願いしたい。

大田専門官 出水中の状況ではないが、川があふれている写真は提供できると思う。

新庄座長 「キラコタン上流の皆伐」はどんなイメージか？

事務局 数年前に山が皆伐した様子の写真を考えていた。写真はあるがやめた方がよいか？

新庄座長 ハレーションが起きそう

事務局 現時点で他にもハレーションが起きそうな所があれば、みなさんからご意見を頂きたい

新庄座長 いつも説明が非常にづらい。あの箇所の木を切って影響があるとは思えない。ただ、見た感じはとてもショックを受ける。道路沿いに全部切られていかにも皆伐。実際には土砂は入っていない。写真が入ると説明はづらい事になるだろう。

事務局 普通地域なので特段規制は無い

網倉所長 場所が特定出来るので、所有者の許可が必要では？勝手に使用されたなど問題になる可能

性もある。

高橋委員長 こういった写真は、場所についてコメントなど入れるか？

事務局 イメージとして周辺で行われている事だという説明を入れる程度。キラコタンとは書かなくても良い

新庄座長 でも判るだろう

事務局 土砂だけではなく、水源涵養についても損なわれるという事もあるのでそこについては触れておいた方が良く考える

網倉所長 機能面と生物多様性の面があるが森林を伐採してもある程度の浸透能は保たれ機能面には影響がないと言われている

高橋委員長 丘陵地自体が貯水池になっていて、上の森林にはあまり影響がないと言われている。生物多様性は明らかに落ちるだろう。

高橋委員長 もう少し情報を集めてみてから検討してはどうだろう

事務局 今のご意見をまとめると、キラコタンの写真はやめた方がよいだろうか

新庄座長 やめた方が良く思う。再生事業でどうするかと言われたら、私有地だから何も出来ないという返答になる。改めて小委員会でも相談してみたらよい。

事務局 同様に他にも気になる所があれば先にご指摘頂きたい

高橋委員長 言葉づかいについて気になる点がある。以前に比べると行政用語が減って読みやすくなっているが「～等。」は「～など」に変更して統一した方がより読みやすくなると思う。

議事2 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会づくりについて

事務局 資料 2-1、2-2 について説明

大田専門官 24 ページのどんぱくツアーは人が集まらず中止になった。水循環の講演会は日程、講師など未定だが開催の予定。

網倉所長 ドングリ倶楽部は4回終了。あと1回残っている。

事務局 32 ページでアンケートの共通項のみ集計してみた所、満足度は高かった。不満という意見もあったが、「もっとヨシの移植をやりたかった」などとても前向きな不満だった。見るだけでは無く自分達も継続して関わって行きたいという意見が見られた。リピーターでコアな方達がいるので継続して作業をして頂けるようなイベントにしていけたら良いと思う。

新庄座長 植林やヒシの刈り取り等はモニタリングの機会を作ると参加者は継続するのではないか。

事務局 そういった意味ではドングリ倶楽部も定期的の実施している。

網倉所長 参加者へのモニタリングの機会の提供という点が課題だと思っている。

事務局 ヒシ刈りもモニタリング出来る様に場所など工夫して実施している。アンケート主催者によってそれぞれ聞きたい項目が違い共通ではない。協議会として実施したことを集計できるように満足度や実感などを統一して見えるようにしてはどうかという意見がある。オリジナルなものとは別に選択肢も含めて統一した項目を作ってはどうか。

新庄座長 イベント実施時に、最低限確認する項目をいくつか決めるという提案を小委員会ではどうか。

高橋委員長 それはとても必要な事だと思う。今後の参加の意思などはアンケートとして必ず入れた方が良く。

新庄座長 共通項3つはこれでよいか？（満足度、自然再生につながったと実感したか、今後かわりたいか。）

大田専門官 普及小から提案頂いた質問は入れるようにした方が良く思う。

事務局 ドングリ倶楽部さんも現地見学会と同じ意味合いがあると思うので同様のアンケートを実施して頂いたらどうだろう。

網倉所長 来年から同じ様式で実施したい。

新庄座長 KIWC などワンダグリンダの参加団体が実施している市民参加イベントのアンケートにもこの項目をいれてもらおうと良いのではないか。協力を要請してみたらよい。

事務局 それでは小委員会で提案して、協力頂ける団体をお願いしたい。

高橋委員長 アンケートの結果を役立てるには共通の項目が必要。

事務局 10年後の全体構想や実施計画の評価にもアンケート結果はとても重要になる。

高橋委員長 次回の小委員会で再度検討したいと思う。

議題3 自然再生につながる地域の取組みについて

事務局 資料3について説明。小さな自然再生に相当する民間や地域でやっている取組みを発掘して情報発信しようという事で今年から始めた。前回それぞれの事務局から情報提供頂いて、鶴居の森林組合と標茶高校、標茶の佐久間さんの沈砂池についてヒアリングを実施した。現在はこの3件のみ。これらの発信方法を検討したい。現時点では、ワンダグリンダのHP、パンフレットへの掲載を考えている。この場で承認を得られれば今後、各取材先に掲載の了解を得ようと思う。それだけだと発信力が弱いと思うので、何かこれ以外に発信方法があれば提案頂きたい。また、地域で取り組まれている自然再生につながるような事例をどんどん掘り起こしていこうという事で手を付けてみたが案件を見つけるのが思いの外難しかった。今後どう扱うか、何かご意見があればお聞かせ願いたい。

新庄座長 まずはHP、パンフレット以外に地域の方に紹介する手法があればご意見を頂きたい。

事務局 新聞への連載も検討していたがネタの数が少ない。

新庄座長 タイトルは「地域で取り組む自然再生」で良いのでは？この取材内容は新聞掲載のコラムとしてもとても良いのでは？

事務局 私たちとしても紹介に足ると思っているが件数がたりない。

新庄座長 連載でなくても良い。

事務局 連載しないのであれば、ニュース性が必要だと思う

新庄座長 ニュース記事では無く、コラムとして載せるとよい。再生事業に焦点を合わせなくても、関わっている人に焦点を当てる切り口も良い。その行為では無く、その人。「地域の再生事業この人」など。たくさんいるだろう。地域の人を紹介したらよい。杉澤さんの植林の活動を取り上げて面白くないがずっと参加している人に注目すると面白い。

事務局 ダメもとで新聞社に提案してみる。KIWCのモニタリングも取り上げてはどうかと思っている。

新庄座長 それも、人の方が面白い。参加者に長年主となって活動している人がいる。そういう人たちを紹介すると良い。

議題4 基金の活用について

事務局 資料4を説明。今年も2~3万円増えて今現在84万円近くになっている。この運用方法を普及小で預かったままになっている。次回の協議会で返したいと思うのでみなさんの知恵をお借りして考えたい。

高橋委員長 時期としては、10年目を契機にこれを有効活用するには名目がちょうど良い。助成対

象経費について、実際には交通費と宿泊費が必要になる為、(2)のスタッフ交通費を旅費にしてはどうか。釧路地方とは限らずに遠方の大学から希望があるかもしれない

大田専門官 上智大のプログラムを決める時に現場を見るだけでは無く、カヌーなど体験を組み込みたかったが費用の面で実現できなかった。

新庄座長 応募資格に(2)釧路湿原流域の学校とあるが(1)(3)に地域を含めていないのはそういった遠方の人を含むという意味か。

高橋委員長 地域を限定しなくても良いと思う。

新庄座長 では改めて助成対象経費についてはどうか。

高橋委員長 スタッフ交通費を宿泊を含めた旅費にしてはどうか。

新庄座長 「スタッフ講師旅費」とまとめてはどうか。

事務局 講師旅費は良いのか。東京から講師を呼んだらあつという間に使い切ってしまう。

新庄座長 やはり全国からの応募で旅費はまずいのではないだろうか。

高橋委員長 基本的には自費で来ている。あくまでも補助。

大田専門官 (7)会場・機材・車両等の使用料・借料にカヌーのインストラクター代などは含まれるか。

新庄座長 それは含まれる。そう判断できるように案内をすれば良い。カヌー会社によってカヌー使用料だけの場合と、すでにインストラクター込になっている場合がある。

事務局 インストラクターのみお願いする場合は講師謝礼がある。

高橋委員長 上限が20万なので問題ないのでは。

事務局 東京などからの旅費に充てるとあつという間に使い切ってしまう額。使いたい人は出てくると思うので悩みどころ。出来れば地元の人たちが活動するために必要なお金に充てたいと考える。

立野指導官 道内における旅費等と記載したらどうか。

新庄座長 「講師スタッフ旅費(但し北海道内)」とするか?東京など遠方からくる場合でも、全額補助では無く、一部補助を希望する場合もあるかもしれない。

網倉所長 あくまで助成なので一部であっても良い。

事務局 5)に減額助成有という記載はしている。

新庄座長 応募・選考方法の選抜方法に事務局で審査して決定とあるがどうか。事務局だけでは無く、第3者となる協議会のメンバーが入り審査するなど公開性、透明性があつた方が良いという意見もある。

高橋委員長 指摘される前にちゃんとしておいた方が良い。

大田専門官 今のメンバーが公的機関の人が多いので、決定した事に不満を持つ人が出た時に過程が不透明だと指摘される可能性がある。公平性が担保出来るメンバーにするか事務局の決定事項を協議会に上げて議決とするかだと思ふ。ただスケジュール的に協議会にかけてメンバーを集めるような時間は無い。

新庄座長 会長に入ってもらえばよい。

大田専門官 必ず小委員会のメンバーが入ること。また事務局の公的機関とそうでない人の割合を考える必要がある。

高橋委員長 会長に委嘱してもらえばよい。

大田専門官 会長に上げるのは、この事務局での決定事項か小委員会か。

高橋委員長 本来ならば協議会で合意可決して頂いてからになるべきだろう。

新庄座長 どちらにしてもここでの案は、小委員会に上げて協議会で決まる。つまり協議会で決定後募集を開始する事になる。

事務局 そこまで出来るかと非常に公正だが事務的に可能だろうか。

新庄座長 「事務局及び会長が任命する協議会委員で審査の上」という文章にして小委員会にかけてみてはどうか。

事務局 実際に、会長が指名する民間の何名かのメンバーを集めて審査会などを行うのは大変。

新庄座長 集まれる人を選ぶ。事務局会議に参加出来る人を選んでもらう。

事務局 これまでの議論を把握している人でなければならない。

新庄座長 簡単に言うと会長と高橋先生が入ってくれたら良い。

事務局 それでは最初から会長及び副会長に入ってもらえば良い。

新庄座長 「事務局及び会長、副会長で審査」として小委員会に承認を得ることとする。

事務局 実際の事務負担を事務局の中で決定しなければいけない。

新庄座長 募集受付作業を事務局でやるという事か。

事務局 公務員は現金を扱う事が出来ない。

高橋委員長 財団はできるか。

事務局 環境財団が受ける事も難しい。

大田専門官 受付～決定までを分担するのは難しい。どこかが主体的に責任を持たないといけない。連携は難しい。申込者に迷惑が掛からない様にしなければならないと思う。外部に頼む事が一番望ましいが資金が必要。

新庄座長 事務費はどれくらいかかるのだろう。予め基金から必要経費を抜いてしまう事も出来るのでは？

事務局 数十万はかかるだろう

新庄座長 金額によってはこの基金を運営すること自体無理になる可能性がある。

高橋委員長 これまでも議論しながら進められなかったのはこの事務量が発生する事が判っていたからだろう

事務局 正しい金額は判らないが、1年のうち20日間事務作業に割いたとして役所の委託単価で計算すると1万7千円×20日間で34万円かかる事になる。

新庄座長 小委員会へ事務量を示して、これを事務局で受けてくれるかどこかに事務事業として発注するかを決めなければならない。その場合、基金の中から30万程度を使用する事になり助成金としては残りの50万になる事を伝えなければならない。

高橋委員長 会長含め事務量がこんなに大変だと思っていないだろう。

新庄座長 事務局で公募して、応募があった内容の検討を事務局と会長と副会長で行い、結果を協議にかけるという簡略化した案を小委員会に出すか？そうでなければ、事務費がかかる事を伝える。

新庄座長 運用費に基金の一部を使用してはダメだろうか。

事務局(久保田) 使用するとしてもせいぜい5%だろう。収支は公開する事になるので抵抗がある。

新庄座長 さっぽろ調査官の渡辺さんが受けてくれる可能性があるならそれを小委員会に提案してみる事も可能だろう。

高橋委員長 あらかじめ確認が必要だが難しいだろう。

新庄座長 すべてを事務局で受けるか、もしくはさっぽろ調査官で若干の事務費で受けてもらえるか聞いてみるか

事務局 相談や判断を伴い、事務局との調整が必要な為、バイトレベルでは無くきちんとした担当者が必要だと考える。

新庄座長 運用資金が溜まるまでは運用出来ないという結論を協議会に返す事になる可能性もある。

事務局 今までアイデアとしては出ていないが、助成金では無くアワードとして分配すれば基金

よりは事務量が軽減できる。

新庄座長 その提案もあるかもしれない。「色々検討した結果、助成金として基金を運用するのは難しい事が判ったので、最も有効と思われる事で基金を活用する」という結論を協議会に返すという案もひとつだろう。

高橋委員長 今後も細々とだが基金への寄付は続く。一度ゼロにしても数年後、同じ問題が起こる。

新庄座長 これまでの議論は非常に有効。「基金として運用するには金額が少なすぎるのももう少し待とう」というのはどうか。

事務局 中村会長の個人名義で保管しているのでこのままには出来ない。

新庄座長 とはいえ現状では運営が困難な為、もう少し待つ必要があるという相談を小委員会へする事になるのではないか。

網倉所長 役所が請け負える部分と、役所が関われない部分がある。その部分を外注というわけにはいかないか。プレスとか事務的な部分は役所でも出来る。

新庄座長 厳密にいうとその部分を役所が行う事もおかしいと指摘を受ける。

高橋委員長 釧路の協議会は他の同様の団体に対し参考になるような道筋を示す必要があるだろう。

事務局 石西礁湖の例があるが、完全なボランティアで行っていると聞いている。

新庄座長 阿蘇も同様

事務局 地域づくり小委員会に予算が無いので、そこで何か行う時に使うというのは案としてどうか。

新庄座長 それを小委員会で提案してみるか。

事務局 地域づくり小委員会はどのような状況か。

大田専門官 現在まだ白紙の状態。今年度中に何かの取組みについて提案が出るのは難しいかもしれない。

新庄座長 再生普及小委員会に報告する内容をまとめたい。実体は報告出来る。案は検討してみたがやるとしたら事務量が発生する事が判明した。これをどう対応するか検討した時に事務局では難しい事もはっきりした。現在基金を扱っているさっぽろ調査官にお願いするにも今ある基金の3割程度の事務費用がかかる。これについてどうするか相談する事になる。そこで腹案として地域づくり小委員会で使用する事も提案できるが地域づくり小委員会の現状もある。事務費用が出たら財団で受ける可能性はあるか？

事務局 経費を出して頂ければ受ける事は出来る。

新庄座長 その場合の費用は？

事務局 50万程度は必要になる。

高橋委員長 常識的にそうだろう。

新庄座長 この現状を小委員会に報告して結論を出すか、事務経費を見込むだけの金額になるまでもう少し待つ事にするかという提案になるのではないか。

事務局 アワードにするという案についてはどうか。「自然再生大賞」など。

新庄座長 どんな内容か。

事務局 詰め切れていないが、イメージとしてはワンダグリンダの中から自然再生大賞を選考してそこにいくらか懸賞金を渡す。簡略な方法で。小委員会まで1ヶ月程あるので今日出た案をもう一度詰めて見たら良いと思う。出来れば先延ばしせず、次の小委員会で何か提案したい。

新庄座長 事務局で再検討という事で良いか。

高橋委員長 基金はもう少し時間を置く事になるだろうか。これまでもそうして来ているが。

新庄座長 これまでと違い、今回は時間を置く目的がはっきりしている

高橋委員長 協議会としては真剣に検討したことが1度もないままここまで来た。

新庄座長 今回やっと状況が明らかになった。

事務局 次の小委員会までに考えられるだけ考えてみてはどうか。

高橋委員長 現状では年に数万円ずつ増えているだけだが、突然多額の寄付を頂く可能性もあるものであまりのんびりしてられない。

事務局 地域づくり小委員会でも、基金の使用について検討してみて頂きたい。

佐々木係長 賞金方式は事務量がかなり軽い。釧路信用金庫で助成制度を行っているが実際は賞金。毎年実施しており表彰の対象が4~5つの区分がある。新技術奨励賞や地域ブランド賞などで10万円。募集して、審査して、決定して表彰するだけで短期間で行っている。

事務局 詳細の内容を改めてお聞きしたい。

佐々木係長 要領は信金で作成している。

高橋委員長 受賞したことがある。20万円ぐらいだったと思う。

佐々木係長 学校のゼミ等での申請がある。研究内容が優れていれば表彰している。

新庄座長 良いアイデア。事務局で今の案も検討してみてはどうか。「自然再生大賞」として、実際に行った事に対して表彰するなど。事務局で検討できるか？

事務局 検討します。出来れば、次の小委員会、協議会に具体的な案を示したいので、事前にみなさんに改めて相談させて頂きたい。

議事5 その他

事務局 各小委員会に提出頂いたパンフレットの写真データについて、おそらくメールで添付できるデータ量ではないのでDVDなどに焼いてご用意頂きたい。

事務局より今後のスケジュール見通しを説明。

閉会

閉会后

事務局 たとえばワンダグリンダ参加者の中で自然再生に貢献している団体を選んで、そこに対して活動を継続して下さいという名目で褒章を出す。応援の資金を10万~20万円小口で年に2~3件出すというイメージ。

新庄座長 今の内容を小委員会で発言するように。今の言葉は重要。「これからの募集では無く、今現在手弁当で活動している人に応援の懸賞を出すというのはどうか」という提案をする。今後の応援団。

事務局 あまり大金では無く、10万円を3件で3年間ほどではどうだろうか。

新庄座長 良いと思う。